（別紙4）　　平成　24　年度　　評価確定日　平成24年9月13日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091500407
法人名	筑後保健生活協同組合
事業所名	虹の家　たかさご　（ユニット名　1ユニット　）
所在地	福岡県大牟田市高砂町16
自己評価作成日	平成24年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7－1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成24年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住宅型有料老人ホームで培った介護の経験を充分に生かして、「地域とともに家族のように暮らす」の理念を軸に、毎日の生活を、規則に縛られずに、自分らしく、本人の意向や家族の思いを大切に、満ち足りた毎日を送って頂たいと、日々の支援に努めています。
併設の交流施設を生かして、ホーム内だけの生活にとどまらず、他者との交流や、御近所付き合いをする事で、自宅での暮らしのような毎日を送れるように、年を重ねて頂きたいと願っています。開所して一年半の間には、ADLの低下・心身の変化・ターミナルへの取り組み等の課題に直面しています。
介護力のスキルアップを図る為に、日々の学習や各研修会の参加をする事で、課題に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は平成22年、その必要性を感じて有料老人ホームからグループホームへ転換された施設である。隣接の地域交流センターでは多彩な行事が計画され、日常的に地域の方々とふれあう機会がある。運営推進会議を通じての様々な提案や協力を運営に活かし、地域の一員として支えられている。毎日の散歩や季節の花見、祭り見物や温泉旅行等に出かけ、「利用者の意向に沿う普通の暮らし」ができるよう、ホームに引きこもらないケアに取り組んでいる。また、職員のスキルアップや資格取得の研修参加を支援し、資質向上に取り組んでいる。今後も更なる向上成長が期待される前向きな事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に家族のように暮らす」の理念を掲示している。	事業所は「地域と共に家族のように暮らす」という理念を掲げて、地域住民との交流の中で支え合い暮らす個別ケアに取り組んでいる。職員会議時に全職員で理念を再確認し、日常の支援の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、回覧板をまわしたり、リサイクル当番を担って、地域の方と交流している。　交流施設の催しを一緒に行う事で、馴染みの関係を作っている。	自治会に加入して地域の清掃やリサイクル活動に参加、隣接の交流施設を地域住民だけでなく一般市民にも無料で開放し、催しに利用者も参加し交流している。秋には法人の祭りが敷地内で行われ、家族や地域住民と交流する機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公園を掃除したり、散歩しながら、空き缶を拾う事をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の議事録を表示している。 意見や、質問があった時は、遅くとも、次回の会議までには、報告出来るようにしている。	地区自治会長、民生委員、地域住民、市や地域包括支援センター職員、利用者と家族代表、職員の参加で2ヶ月に1回開催している。ホームと交流施設の運営状況、利用者の生活状況等報告を行い、意見や質問を受けている。提案を受けホーム出入口のミラー設置等の改善を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の主催する研修には極力出席をする。 運営推進会議には、複数参加して頂き、会議の報告書を提出している。	市主催の研修に必ず出席して、市役所や包括支援センターの担当職員とは、困難事例の相談や利用者の紹介、徘徊模擬訓練等で連絡を取り合っている。運営推進会議には市職員、地域包括支援センターの参加、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を法人内の他事業所と組織している。	法人内の事業所と共に身体拘束廃止委員会を発足しており、職場会議や法人研修で学び、職員は拘束禁止の内容を理解している。外出行動の多い利用者には安全面から職員が常に見守りのケアを行い、施錠しないケアに取り組み、現在は安定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会等で学習をし、職員全員が虐待に対して人権侵害であるとの意識をもって防止に努めている。		

公益社団法人　福岡県介護福祉士会

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全事業所で、研修会を開催して、支援の必要性を関係者と話し合い、いつでも活用できるようにしている。 成年後見人制度のパンフレットを常備している。	職場会議の研修で学習し、パンフレットを備え付て家族へ配布し、家族からの相談を受けている。成年後見制度は現在一人が利用し、判断能力の低下した利用者の代弁者となっている。今年度より法人全体で研修を行うよう計画している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章をもって、説明をし、質問にお答えしたり、慎重に対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪も多く、その機会にご意見を伺っ足り、必要に応じて、カンファレンスを開催している 玄関にご意見箱を設けている。	ご意見箱を設置し、家族の訪問時に個別に意見を聞いている。有料ホームの時から家族会があり、温泉旅行や法人主催の祭りで家族が集まる機会がある。しかし、家族同士で話合う機会はなく、運営推進会議で意見を述べる程度である。	家族会の有効活用が望まれる。職員を交えず家族のみで話し合い、情報や気持ちを共有し、家族の協力や提案・言いにくい意見を引き出す機会となるように期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員が組合員である事から、定例総代会への出席が出来議決に参加出来る。 事業所全体会議を年2回開催して、意見や提案を聞く機会を作っている。	職員は法人の総会に出席、意見を述べ議決権行使ができる。ホーム運営に関しては法人全体会や職員会議で提案や意見を聞いている。管理者は入居者や退院者の受け入れ等も相談し、提案や意見を検討し必ず答えを出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士、介護支援専門員などの資格を取得するための資格取得支援制度（合格祝い金、実務研修貸付制度・資格手当て）などを設けている。、非常勤職員から常勤職員への登用制度を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	ハローワーク等への求人も年齢不問で出している。当法人の60歳定年後についても継続雇用制度を設けて現在のところ定年の方で希望の方はすべて継続雇用している。 全員が、各種研修会を希望のもとに、参加している。	法人の職員採用には、性別や年齢による排除はない。パートの職員採用や定年後の継続雇用制度もあり、男性職員も2名働いている。有休や賞与等の職員間差別はなく、研修や資格取得希望者には勤務を調整して支援、働きやすい職場づくりをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の各介護事業所での年間研修計画の中に人権教育を1年に1回行うようにしている。	利用者の人権を守る内部研修を行うと共に、外部研修に参加した職員による伝達研修を行い皆で共有している。管理者はケアの中で声かけ等に注意を行い、利用者の情報や秘密を守り、その人らしく普通に暮らせるよう取り組んでいる。	

公益社団法人　福岡県介護福祉士会

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大牟田市の介護サービス事業者協議会主催の「認知症ケア実践塾」に法人内の各事業所は必ず1名は登録し、実践塾の学習会に参加させている。また参加者が学んだことを、月1回の職場会議でチューターとなって周りの職員に伝えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の徘徊模擬訓練に積極的な参加をする事で、校区の同業者との協力、共有関係が築かれている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅へ訪問したり、担当ケアマネや家族からの情報を充分に受け、御本人様が求めている生活を聞きだせる様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話合いの機会を充分に設けて、情報シートなどを活用しながら、利用者様が求められている事を聞き出せる様に努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での暮らし方・かかりつけの病院・通い慣れたデイケア等を続行したまま、暮らしの変化を最小限に留めるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	例えば洗濯物のたたみ方、調理方法など、人生の先輩として、教えて頂く場面が多くある。 得意分野の役割を担ってもらっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度は、家族に近況を知らせる手紙を送付して、情報や、心境の共有を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例えば実家の近くにある行き付けの美容院へ行くことで、美容師さんや近隣の知り合いの方と懐かしい再会をされた。	家族や友人が訪問しやいように配慮し、リビングに設置した公衆電話の取次ぎや隣の交流施設での馴染みの人との出会いを支援している。また、行きつけの美容室、八百屋や雑貨屋への外出は職員が同行支援を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	危険な行動をされる入居者様の見守りをしていただいている。 共有スペースにソファーを置いて、団欒できるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院治療が必要になられ、退所された方へのお見舞いをし、その後の生活を把握している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の記入をする事で、本人や家族のニーズの把握に努め、ニーズや目標を介護計画書に反映させている。	センター方式を活用し、本人が言った言葉、言えない人はその行動や態度から推し測ったり、家族から聞き取ったことをきめ細かく記録したりして、思いや意向を把握できるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人からの聞き取りやセンター方式のアセスメントシートを作成する事等で、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前・午後・夜間帯での暮らしを記録し、又職員間の申し送りがスムーズにとれるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議で、モニタリングを行い、必要時は、カンファレンスを開催して、ご本人・家族の思いをとりいれた、計画を立てている。	日々の暮らしの中で、本人や家族から思いや意向を聞き、関係者の意見を反映した介護計画を作成している。毎月の職場会議で見直しを行い、必要な場合は家族や専門職を交えて話し合いを行っている。	

公益社団法人　福岡県介護福祉士会

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わったそれぞれのスタッフが、ミーティングシートに記入し、全員で共有しながら検討している。 介護計画書を記録簿に添付して、日々の観察に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、入浴や散歩等は、曜日や時間にとらわれずに、、各人毎の体調や気力等を重視しながら、個々に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニ・薬局・公園等を散歩コースに取り入れて、地域に溶け込む暮らしが出来るようにしている。 交流施設での催しを地域の方と一緒におこなう（絵画教室・饅頭つくり・よかば一い体操等）		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ本人や家族の希望に添ったかかりつけ医を選んで頂き、個人に合った適切な医療を受けられる様に支援している。	入居時に本人や家族と受診希望について話し合い、希望に沿った援助を行っている。家族の付き添いで受診したり、訪問診療を受けたりしており、他科（眼科や耳鼻科等）受診時は職員が同行して、結果は家族に報告し、受診情報の共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職員が常勤として勤務しており、健康管理に従事している 在宅支援診療所との24時間医療連携体制の元、調整・連絡をとっている。 週1回往診をしてもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症という病気をかかえての入院となるため、病院関係者、ご家族と情報交換し、退院に関しては充分な相談をして対処している。　　医療機関から在宅医療機関の連携がとれている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期の対応についご家族に説明し同意をとっている。ターミナルとなった場合は、精細な同意書を作成する。　　管理者.、看護師が中心となり、スタッフ全員で方針を統一していくようにしたい。	入居時に終末期に伴う同意書を作成して、事業所のできること、できないことを明確にし、説明を行っている。医師、看護師、家族と連携をとりながら方針を共有し、安心して納得した最期を迎えられるように、本人・家族の意思を随時確認しながら取り組んでいる。	

公益社団法人　福岡県介護福祉士会

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル書の作成をしている。 外部研修に参加して、職場会議の場で、スタッフ全員に伝達研修をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回開催している。 地域の方が4名の参加された。 防災グッズと水・常備食を確保している。	マニュアルを作成し、年2回消防署と連携し、利用者や地域住民と共に、夜間想定の避難訓練を行っている。防災用品や水・食料等の備蓄を行い、避難場所を確保している。しかし、消火器訓練、風水害や地震への対応はこれからの課題となっている。	火災訓練だけでなく、風水害、地震等への具体的対策を期待したい。また夜間想定訓練だけでなく、職員・地域住民を交えての消火器訓練等も望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定語ではなく肯定語を発する様に心がけている。	一人ひとりの個性に合わせ、急がせないゆったりした対応がなされている。プライバシーに配慮し、利用者同士を比較するような言葉かけをしないよう心がけている。毎月の職場会議で言葉かけ等、尊厳を守って接するよう話し合っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面で、本人の意向を問いかける様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活面すべてにおいて、お一人お一人のペースを尊重している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性には明るい色彩を選んで頂き、「とてもお似合いですよ」と声かけするよう心かけている。　　外出時には、化粧をしたり、ハンドバックを持たれる様にしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を生かしたり、調理方法を聞いたりしながら、座ったまま出来る、下ごしらえの手伝いや、食器拭き・配膳を一緒に行っている。	一人ひとりの能力を把握し、食事作りや配膳、後片付け等で力を発揮できるように支援し、職員は同じテーブルで同じ物を食べている。干し大根や干し柿作り等、利用者と共に作業し季節を感じてもえるようにしている。食材等は通販のカタログを利用者に見てもらい、献立作りに役立てている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の入居者には、カロリーオフの甘味料を使用したり、おやつをマービーにしたりしながら、本人に気ずかれない様に制限する工夫をしている。 いつでもお茶を飲めるように、テーブルに置いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後に歯磨きの誘導をしている。 月3回　連携医療歯科機関からの口腔ケアを実施している。 夜間に入れ歯の洗浄をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員が排泄パターンを把握して、都度、シートに記入して、入居者に合わせたトイレ誘導を行っている。 その方に合わせた排泄用具を常に検討しながらの使用にしている。	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。さりげない早めの誘導を心がけ、失敗を少なくするようにしている。1日のうちでパンツの種類を変える等の工夫をしながら、自立に向けての支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	都度の排泄・排便をチェック記録する事で、状態の把握をして、対策を講じている。 極力服薬に頼らずに、食べ物（バナナ・乳製品）等を使用する。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本の希望や体調を最優先している。 お一人ずつゆったりとくつろいだ入浴をされている。	日曜日以外は毎日浴槽に湯を張り、いつでも入浴できるようにしている。入浴を嫌がる人には無理強いせず、時間や曜日をずらしたり、声かけの工夫をしながら、週3回は入浴できるように工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の椅子の他に各所にソファーを設け、くつろげるようにしている。畳のスペースも設けている。 日光浴や外気欲も積極的に行なう。 日中運動や活動の場を作り、安眠できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理し、全職員が確実な服薬を支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事や得意な事を把握し、持てる力を発揮して頂き。感謝の言葉を伝えると共に自信を持たれる様に支援をしている。　（草取り・飲酒・カラオケ他）		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、本人の意思にまかせて、いつでも行けるようにこころがけている。 年に一回、家族会で温泉に行く。 公民館の祭りや・バラ園等へ出かけた。	毎日の散歩は、個別に声かけして車椅子介助もしながら行い、途中で会った地域住民との会話を楽しんでいる。週1回は希望する利用者と車で買い物に出かけ、月1回は季節の花見や祭りに出かけている。また、家族同行で年に1回、日帰り温泉旅行を実施している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いで、小額の金銭を入れて頂き、自ら支払われて自動販売機でコーヒーを買うのを楽しまれている。 歩行での買い物が困難になられた方には、カタログで買い物をしていただく。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置して、自らいつでも利用できるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある生花をか生けたり、癒しの音楽をかけたりした工夫をしている。	リビングにはテーブルと椅子、座り心地のよいソファーが置かれ、畳のスペースもあり、利用者がゆったりとくつろげるようになっている。リビングの外には開放的なウッドデッキがあり、壁には行事の写真が飾られ、訪問時は、玄関に利用者と職員で作成した七夕飾りが置かれ季節を感じる取り組みがなされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのコーナーに陽だまりになる畳のスペースを設けている。 中庭のデッキで日光浴が出来る。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の支援を受けて、本人が一番居心地良く過ごせる様に、家具等も使い慣れた物を備えていただいた。 ベットが嫌な方は、床に布団を敷いて就寝される。	自宅から使い慣れたタンスや鏡台を持ち込み、各部屋とも家族の写真などが飾られている。希望者は仏壇も持ち込んでいる。ベッド嫌いの人には、フローリングに布団を敷き安眠できるようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にはプレートや表札を提示したり、カレンダーを毎日付け替えをして頂く等の工夫をしている。		

公益社団法人　福岡県介護福祉士会